



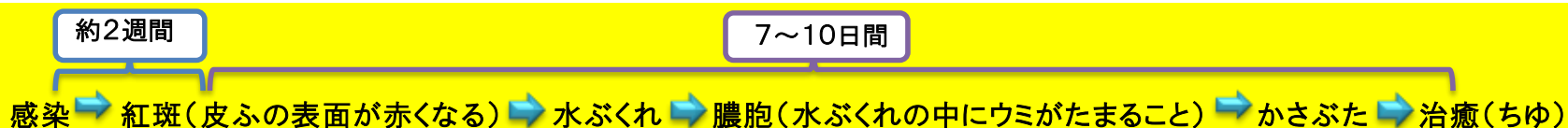
熊本市 感染症発生動向調査 速報



水痘（みずぼうそう）について

水痘が少し増えています。水痘は平成26年10月1日から水痘ワクチンが定期接種となって以降は、罹患率も減少しています。水痘-帯状疱疹ウイルスによる感染症で「みずぼうそう」として知られている病気です。年中みられますが、12月～7月に多い傾向があります。9歳以下に多くみられますが、今回届出の4人の内訳は、1歳1人、9歳1人、20歳代が2人になっています。成人に水痘が発症した場合、水痘そのものが重症化するリスクが高いと言われています。

・**症状**……全身性のかゆみを伴う発疹と、38℃前後の発熱が主な症状です。発疹は、まず赤い斑点ができ（紅斑）、次第に盛り上がり（丘疹）、水ぶくれになり（水疱）、かさぶた（痂皮）になります。これらの紅斑、丘疹、水疱、痂皮のそれぞれの段階の発疹が混在しているのが特徴です。通常、軽症で終生免疫（一度かかったら生涯その感染症にはかからない）を得ることが多いですが、ウイルスは治ったあとも体の中に潜伏していて、後に「帯状疱疹」として再発することがあります。



- ・**感染経路**…患者のくしゃみなどのしぶきを吸い込むことによる飛沫感染、あるいは水疱の中に含まれるウイルスに接触することにより感染します。すべての発疹がかさぶたになるまで感染力があります。
- ・**治療**…塗り薬が中心になります。重症の場合もしくは重症化の防止として、抗ウイルス剤を使用することもあります。熱が高いときは特に、水分をしっかりとらせ脱水にならないように気をつけましょう。発疹が出たあとも高熱が続いたり、ぐったりしているときは早めに医療機関を受診しましょう。
- ・**予防法**…予防接種が有効です。水痘ワクチンの1回の接種により重症の水痘をほぼ100%予防でき、2回の接種により軽症の水痘も含めてその発症を予防できると考えられています。

期 間		平成30年 34週		平成30年 35週	
		8/20～8/26		8/27～9/2（最新）	
疾患名 <small>（百日咳は平成30年1月1日より全数報告へ変更になりました）</small>	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ		0	0.00	1	0.04
RSウイルス感染症		26	1.63	51	3.19
咽頭結膜熱（プール熱）		4	0.25	2	0.13
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		24	1.50	21	1.31
感染性胃腸炎		41	2.56	57	3.56
水痘（みずぼうそう）		1	0.06	4	0.25
手足口病		13	0.81	15	0.94
伝染性紅斑（りんご病）		0	0.00	0	0.00
突発性発しん		12	0.75	7	0.44
ヘルパンギーナ		27	1.69	24	1.50
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）		1	0.06	2	0.13
急性出血性結膜炎		0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎（はやり目）		23	4.60	22	4.40
細菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎		2	0.40	2	0.40
マイコプラズマ肺炎		0	0.00	0	0.00
クラミジア肺炎（オウム病を除く）		0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎（ロタウイルス）		1	0.20	0	0.00